

地区スローガン：「ロータリーから千葉を元気に」
会長方針：「温かいクラブ・活気のあるクラブ・調和のとれたクラブ」

国際ロータリー第2790地区 第3グループ 千葉西ロータリークラブ Rotary Club of Chiba-West CLUB TRAINING

創立 1976年1月20日 承認 1976年2月25日
会長 野口アキ子 幹事 飯高喜代志
例会場 千葉スカイウィンドウズ 東天紅 センシティタワー23階
TEL 043-238-5555
例会日 毎週火曜日 12:30~
事務局 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階
TEL 043-245-3202 FAX 043-245-7522
E-mail : chibawestrc@wrpc.co.jp
URL : http://www.chibawest-rc.net/

■ ロータリークラブの役員と理事について 海寶勘一 出典：手続要覧

クラブの役員と理事に関して、あらためて整理をしてみました。

ロータリークラブにおける「役員」とは、クラブ運営で常にビジョンをもって、特定の指導的役割を担う人のことで、クラブ運営の根本的な意思決定を心がけます。ですから、常に役員会を開催してクラブ運営の現況や今後についての協議が必然になってきます。標準クラブ定款第11条理事および役員および委員会の第4節役員の項には、クラブの役員は、会長、直前会長、会長エレクト、幹事、会計とし、1名または数名の副会長も役員に含めることができ、これら全員を理事会メンバーとする。また、会場監督もクラブ役員であるが、細則が定める場合、理事会メンバーとすることができる。したがって、理事会の構成には、少なくとも「会長、直前会長、会長エレクト、幹事、会計」の5人の役員が必要になります。なお、副会長を役員に含めることもできますが、その場合は副会長も自動的に理事会メンバーとなります。また、細則で定めれば、役員である会場監督を理事会メンバーとすることもできます。一方、「理事」はクラブ運営について話し合い、その議決に参加する人のことです。いずれも、クラブ細則で定められた選挙によって選ばれます。

理事会は「理事会メンバーと規定された役員」と「理事」によって構成され、その両者ともに理事会構成員として議決に参加します。「理事会メンバーと規定された役員」は、議決に参加する以上、理事の任務も兼ねているということです。

会員数が多いクラブでは、「副会長は役員」とし、細則で「会場監督は理事会メンバー」と定めている場合もあるようです。我が千葉西ロータリークラブも踏襲ですが、その場合は「会長、直前会長、会長エレクト、幹事、会計」および「副会長、会場監督」の合計7人の役員が理事会メンバーになります。

理事の人数は細則で定めませんが、理事を置かずに、上記の「理事会メンバーと規定された役員」だけで理事会を構成することも可能です。また、クラブに副会長を置かないこと（役員でも理事会メンバーでもないこと）も可能です。会員数の少ないクラブでは、参考になる理事会構成になります。

一般的にCLP受け入れクラブでは、理事はクラブ管理運営委員長、広報公共イメージ向上委員長、ロータリー財団委員長、奉仕プロジェクト委員長などのクラブ内役職を兼務する機会が多く通常になっています。もちろん、役職を兼務してもしなくても構いません。各委員長の責務としては、その多くは、クラブの奉仕活動を実践させる為の一切を優先させます。

クラブ運営の重要な役職である役員と理事の立場が、少しでも理解され評価が高まるのが大切であります。クラブメンバーは役員理事の活躍に協力をする義務も責任もありますので、時をみて標準クラブ定款とクラブ細則に目を通して馴染みましょう。



■ ロータリーの歴史年表 出典：RI2790地区史 RID2790 山田修平 PDG RID2680 田中 毅 PDG RID2710 諏訪昭登 PDG RID2500 足立功一 PDG

1905(M38)年2月23日

1. ボール・ハリス他3名（シルベスター・シール、ハイラム・ショーレー、ガスターバス・ローア）がシカゴロータリークラブを設立（ロータリーの創立）（1業種1人の原則）初代会長シルベスター・シール。ロータリーソングの習慣始まる（ハリー・ラグルス）

1906年

1. シカゴ・クラブ定款制定（定款第2条「綱領」に2項目「相互扶助と親睦の概念」を導入。その後ドナルド・カーター直言により1項目「社会奉仕概念」を追加）

1907年

1. ボール・ハリスがシカゴRC三代目会長に就任。公衆便所設置運動（1909年設置）。（社会奉仕の実践）

1908年

1. サンフランシスコに2番目のクラブ誕生。ついでオーランド（1909）、シアトル、ロサンゼルス、ニューヨークでRC設立。シカゴRC最初の家族会を開催。A・F シェルドン、チェスリー・ペリーが入会。

1910年

1. 全米ロータリークラブ連合会が誕生し（16RC、1,500人）、ボール・ハリスが初代会長に就任（2ヵ年度）、後年これをRIの創立と位置づけた。チェスリー・ペリーが初代事務総長に就任

1. シカゴで第1回ロータリー大会開催。

1. 最初のロータリーの綱領制定（親睦が目的から外れ物質的相互扶助からの脱却を図る）

大会演説でシェルドン（シカゴ RC）が “He profits most who serves his fellows best.” を発表

1. カナダでウィニペグ RC 誕生（米国以外で初、翌年度加盟）

1911年

1. 「The National Rotarian」発刊（翌年 The Rotarian と改称）、ポール・ハリス「National Rotarianism」を掲載（「Toleration: 寛容」の起源）

1. ポートランドで第 2 回大会開催。シェルドンの標語は “He profits most who serves best.”（最もよく奉仕する者最も多く報いられる）となってロータリー宣言の結語として採択。またコリンズ（ミネアポリス RC）が小旅行企画の船上で、“Service, not self”（超我の奉仕）を発表したと伝えられ、その後 “Service above self” に変更され、シェルドンの標語と共に広く使用されるようになる（1921）

1912(T1)年

1. 国際ロータリークラブ連合会に改称（ドゥルース大会 50RC 6,000 人 グレン・ミード会長 P・ハリス名誉会長）名誉会員制度採択

1. 連合会の綱領とクラブの綱領が分離された（親睦と相互扶助を一掃）

1. クラブ綱領 5 カ条を含む模範定款・細則を発表。クラブ綱領に “service” 初出展

1. 歯車のロータリーマーク制定。地区制制定

1. シラキュース RC の身障者対策が、やがてトレド RC やエリリア RC のエドガー・アレン等によって、国際身体障害児協会の設立につながる（社会奉仕活動の顕在化）

1913年

1. 水害援助拠金（オハイオ、インディアナ両州救済合計 \$25,000）。身体障害児対策開始（シラキュース RC）。ロータリー年度の表現始まる（7 月から 6 月と決定）

1. 道徳律起草の提案（バッファロー大会）。イギリスが BARC 結成（後の RIBI）

1914年

1. 第 1 次世界大戦（1914~1918）イギリスとアイルランドで戦争避難民救済活動（国際奉仕の萌芽）

1. ロータリー旗採用（ヒューストン大会）。

1. IM 始まる（サンフランシスコ RC とオークランド RC）

1915年

1. サンフランシスコ大会でアイオワ州スー・シティ RC の劣作である「ロータリー倫理訓（The Code of Ethics：道徳律）」を採択（職業奉仕基準の確立）

1. 標準クラブ定款と模範クラブ細則を採用（クラブ管理の標準化）

1. 地区制度・ガバナー制度の制定。アドレシヨナル正会員制度の制定

1. 身体障害児対策を本格開始（トレド RC）

1916年

1. ガイ・ガンディカー（フィラデルフィア RC）が道徳律を含む「A Talking Knowledge of Rotary（ロータリー通解）」を著し、連合会が出版（ロータリーの一般奉仕概念の確立）。

1. 青少年活動委員会設立。米国で出席率競争開始

1917年

1. アーチ・クランフ RI 会長が財団の前身となる「ロータリー基金」（Rotary Endowment）を提唱（アトランタ大会）（ロータリー財団の始まり）。RI 大会の 6 月開催開始

1. 身体障害児協会設立（トレド RC）

1918年

1. カンザスシティ RC がカンザスシティ大会の余剰金 \$26.50 を R 基金に寄付（最初の寄付）

1. 連合会綱領に「Ideal of SERVICE」初出

1. 戦争避難民救済資金募集（アメリカの各クラブ）

1919年

1. 国際ロータリークラブ連合会とクラブの綱領が統一される（ソルトレイク・シティ大会）

1. 地区ガバナー国際会議開催（後の国際協議会）

1. エリリア RC のエドガー・アレンが国際身体障害児協会を開始

1920 (T9)年

1. 日本最初のクラブ誕生（東京 RC：登録番号 855、米山梅吉・福島喜三次両氏の尽力による）。

1. 少年週間開始（ニューヨーク RC）。奨学金制度開始（アトランタ RC）

1921年

1. 米国外で初めて国際大会を開催（エジンバラ）。これを記念して綱領の中に国際親善と平和の項目を加えることを決定（国際奉仕の綱領化）

1. “Service, not self” がこの頃 “Service above self” に変更される

1922 (T11)年

1. 国際ロータリー (RI) に改称（ロサンゼルス大会 1,243RC、81,000 人）

1. ロータリーの綱領改正（現在の原型、6 カ条）。新しい標準 RI 定款・細則及びクラブ定款・細則採択。メイクアップ制度を含む出席規定制定（クラブ管理の抜本的改正）

1. 大阪に RC が誕生（登録番号 1349）。

1. イギリスで RIBI 地域運営が認められる

1923 (T12)年

1. セントルイス大会で決議 23-34 採択（ウィル・メーニア Jr.、ポール・ウエストバーグ）（ロータリー理念、原則の確立）

- 1. 関東大震災に際し RI と各国 RC から多額の見舞金が贈られる (RI : \$25,000、合計 \$89,000)
- 1924 年
 - 1. ロータリー徽章の正式規格制定。
 - 1. 無地区時代日本にスペシャル・コミッショナー初代米山梅吉
- 1926(S1) 年
 - 1. 第 1 回太平洋地域大会 (ホノルル)
- 1927 年
 - 1. ベルギーのオステンド大会で四大奉仕部門を承認。(Aims and Objects Committee: 目標策定委員会) (四大奉仕への転換)。道徳律頒布中止。最初の青少年交換
- 1928 年
 - 1. 「ロータリー財団」設立。1931 年信託組織化、1983 年イリノイ州法のもとで非営利財団法人化 (財団活動の確立)。
 - 1. ビビアン・カーター著「The Meaning of Rotary(ロータリー解析)」出版。
 - 1. ポール・ハリス著「The Founder of Rotary(ロータリーの創設者)」を RI が出版
 - 1. 第 2 回太平洋地域大会 (東京)
 - 1. 日本が満州、朝鮮を含む第 70 区に制定される。初代ガバナーに米山梅吉就任。
 - 1. 大連 RC 設立。大連 RC の「ロータリー宣言」発表 (古沢文作)
- 1929 年
 - 1. モットー廃止提案 (ダラス大会 29-7)。世界恐慌 (10 月)
- 1930 年
 - 1. ロータリー創立 25 周年。パスト・サービス会員制度制定。青少年交換指針発表
 - 1. 日本スマイル箱の原型 (ただし罰金徴収式) が大阪 RC で発足
 - 1. ロータリー財団が最初の補助金 500 ドルを拠出 (エドガー・アレンの国際身体障害児協会へ)。
 - 1. A・F・シェルドン退会
- 1931 年
 - 1. ロータリー財団信託宣言
 - 1. 浄財拠出型スマイル開始 (東京 RC)。道徳律頒布禁止。
 - 1. 日本第 1 回地区協議会開催 (井坂孝ガバナー)
- 1932 年
 - 1. 「四つのテスト」創案 (ハーバート・テラー)。
- 1933 年
 - 1. 「ロータリアン間の取引関係」を発表。一都市一 RC 制廃止。
- 1934 年
 - 1. 規定審議会発足。シカゴ大学が「Rotary?」出版
 - 1. 「国事に関する方針の声明」発表
- 1935 年
 - 1. 現在の「ロータリーの綱領」ほぼ完成、前文と四カ条の本文という解釈 (目的の明確化)
 - 1. ポール・ハリス夫妻来日。国家間訪問 (ロータリー友情交換プログラム) 設定
 - 1. ポール・ハリス著「This Rotarian Age(ロータリーの理想と友愛)」を RI が出版
 - 1. 「奉仕の理想」「我等の生業」第 70 区京都大会で発表。
 - 1. 軍部の弾圧により例会に日の丸・君が代導入 (京都 RC)
- 1936 年
 - 1. 「国家有事中のロータリー活動」発表。大連宣言採択 (区神戸大会)。
 - 1. 「ニコニコ箱」の名称開始 (大阪 RC)
 - 1. 世界大戦によりドイツでクラブ解散。翌年イタリア・オーストリアで解散
- 1939 年
 - 1. 第 2 次世界大戦 (1939-1945)。
 - 1. 日本の地区構成が、第 70、71、72 区となる
 - 1. シニア会員制度制定。
 - 1. 日満ロータリー連合会結成 (区別府大会)。
 - 1. 国際身体障害者協会設立 (エドガー・アレン)。シニア会員制度実施
- 1940 年
 - 1. 第 1 回日満ロータリー地区連合年次大会 (横浜、5 月)。日本の RC が RI 脱退 (9 月)、名称を変えて各地で例会を続ける。「青少年への奉仕の目標」発表
- 1941 年
 - 1. RI 第 13 地区の大会が 21 カ国政府を代表する関係者をロンドンに招待して教育文化交流機構について協議する会議を開催、これが後にユネスコとして成立
 - 1. チェスリー・ペリー RI 事務総長退任。
 - 1. シニア会員をシニア・アクティブ会員に変更
- 1942 年
 - 1. RI 理事会は、1932 年にハーバート・テラー(シカゴ RC)が考案した「四つのテスト」を正式採用。1954 年、テラーは RI 会長就任に先立ち版權を RI に寄贈

1945年

- 1. 49人のロータリアンが国連憲章起草に参画。
- 1. ロータリー財団の目標設定。
- 1. グラムRCがRI復帰（戦後第1号）

1946年

- 1. 米山梅吉逝去（4月）。福島喜三次逝去（9月）

1947年

- 1. ポール・ハリス逝去（1月27日、享年78歳）。日本第1回復帰協議会開催ポール・ハリスを記念してロータリー財団奨学制度実施（18人）

1948年

- 1. 職業奉仕解説書、パーシー・ホジソン著「Service is My Business(奉仕こそわがつとめ)」をRIが出版。ポール・ハリス著「My Road to Rotary(わがロータリーへの道)」をRIが出版。職業奉仕(委)廃止

1949年

- 1. 日本のRCがRIに復帰（第60地区：東京、京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌、他広島含む13RC）。一都市一RC制を完全廃止。ドイツもRI復帰。
- 1. 国際協議会がシカゴ中心からレーク・ブラシッドに移り“Enter to Learn, Go Forth to Serve”掲示開始（ケン・ガンジイ 1947-48 RIP 作）

1950年

- 1. 二つの標語“*He profits most who serves best*”と“*Service above self*”をロータリーモットーとして公式採用（デトロイト大会）
- 1. 日本からの第1期財団親善奨学生送り出し(清水長一米国へ。元国連難民高等弁務の緒方貞子氏は翌年の2期生)。中国のRCが解散開始

1951年

- 1. 千葉クラブ創立（60地区・手島知健 DG 東京 RC）
- 1. 「ロータリー倫理訓」本文を手続要覧から削除。
- 1. 中国RC解散
- 1. ロータリーの綱領の“Objects”を“Object”に変更、一カ条の主文と四つの付随項目という解釈（アトランティックシティ大会）
- 1. 最初の財団奨学生来日（東大）
- 1. 日本最初のICGF（現IM）開催
- 1. Aims and Object 委員会廃止。RI加盟承認番号を廃止

1952年

- 1. 東京RCが米山記念奨学金制度立案（翌年より実施）。
- 1. 「手に手つないで」発表（第60地区大阪大会）
- 1. 日本60地区を61地区と2地区に分割。

1953年

- 1. 木更津クラブ創立（60地区・小林雅一 DG 東京 RC）
- 1. ロータリーの友創刊。
- 1. 第61地区神戸大会で「手に手つないで」を唄い円陣を作ることが始まる。「それこそロータリー」発表

1954年

- 1. 市川クラブ創立（60地区・宮脇 富 DG 札幌 RC）
- 1. 「四つのテスト」著作権がRIに寄贈される。「四つのテスト」邦訳決定（本田親男）。
- 1. エバンストンにRI中央事務局完成

1955年

- 1. 船橋クラブ創立（60地区・柳瀬省吾 DG 横浜 RC）
- 1. ロータリー創立50周年。ロータリー財団の目標改正。
- 1. 日本4地区に分割

1956年

- 1. 館山・野田・松戸クラブ創立（60地区・小松 隆 DG 東京 RC）
- 1. ロータリー財団週間制定。RYLAがオーストラリアで発足

1957年

- 1. 銚子・茂原・佐原クラブ創立（355地区・伊藤文吉 DG 新潟 RC）
- 1. 全国規模の米山記念奨学委員会設立。財団ポール・ハリス・フェロー開始。
- 1. 日本、5地区に分割

1958年

- 1. 世界理解週間制定

1959年

- 1. 東金クラブ創立（355地区・柏原孫左衛門 DG 東京 RC）
- 1. 財団奨学生の目的を国際理解に変更。
- 1. 日本6地区に分割

1960年

- 1. 日本、7地区に分割

1961年

1. 鴨川・成田・柏・旭クラブ創立（358地区・田 誠 DG 東京 RC）
1. RI 第 52 回東京国際大会開催（参加国及び地域 74 以上、23,366 人、アジアで最初の大会）天皇陛下来臨。日本 8 地区に分割

1962年

1. 八日市場・大原クラブ創立（358地区・中村米平 DG 東京 RC）
1. ロータリーの友誌発行 10 周年
1. 最初のインターアクトクラブがフロリダ州メルボルンに設立され世界各国に拡大（翌年、仙台に日本最初のインターアクトクラブ設立）
1. 世界社会奉仕プログラム（WCS）の導入（国際奉仕活動の本格化）

1963年

1. 勝浦・流山・上総・習志野クラブ創立（358地区・湯浅恭三 DG 東京 RC）
1. 「国際ロータリーの基本方針」「ロータリーの基本的特色」「国際青少年計画への指針」発表。世界社会奉仕委員会企画発表。ポール・ハリス夫人ジーン逝去

1964年

1. 千葉南・市原クラブ創立（3580地区・水沼政久 DG 横浜 RC）
1. シニア・アクチブ会員、アディショナル会員制度一部改正
1. RI 文献日本語翻訳配布事務が東京文献事務所へ移行
1. 日本 10 地区に分割。
1. 東京オリンピック開催、東京クラブを中心にして聖火台を寄贈

1965年

1. 大多喜・天羽⇒富津・千倉・我孫子クラブ創立（358地区・神守源一郎 DG 東京 RC）
1. マッチンググラント開始などロータリー財団プログラム改正（各種補助金）。
1. 日本 11 地区に分割。分区代理制開始

1966年

1. 新千葉・八街・横芝⇒成田空港南・大佐和⇒富津中央・鋸南クラブ創立（358地区湯浅恭三 DG 東京 RC）
1. 研究グループ交換（GSE）発足。職業分類指針発刊
1. WCS 財政援助制限撤廃（金銭的援助の緩和）。最初の GSE 来日

1967年

1. 印西・八千代・多古・小見川クラブ創立（357地区千葉+埼玉・松方三郎 DG 東京 RC）
1. ロータリー米山記念奨学会を財団法人化。日本 13 地区に分割

1968年

1. 船橋西・市川東・木更津東クラブ創立（357地区・川名正義 GD 館山 RC）
1. 東ヶ崎潔氏 RI 会長に就任（1968-69）
1. ローターアクト計画発表（同年、川越に日本最初のローターアクトクラブ設立）
1. 居住地会員制度制定。
1. アーチ・クラウン賞設定。日本 14 地区に分割

1969年

1. 青少年活動週間制定。地区幹事・地区会計制度制定

1970年

1. 松戸東クラブ創立（357地区・森田勝彦 DG 新千葉 RC）
1. 規定審議会を RI の立法機関として決定（組織の立法化）
1. 日本ロータリー 50 周年。「ロータリー資料室（現ロータリー文庫）」設立
1. シニア・アクチブ会員制度一部改正。日本 17 地区に分割
1. 大阪万国博覧会開催、人口一億人突破

1971年

1. 佐倉クラブ創立（357地区・河野秀夫 DG 熊谷 RC）
1. 1959 年オーストラリアとニュージーランドで開発されたロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）を公式採用（1976 年大阪と和歌山で日本で初めて RYLA 実施）。
1. 世界社会奉仕推進強調
1. 「ロータリー日本 50 年史」出版。ロータリー重要文献日本語訳改定実施

1972年

1. 本笠⇒印旛中央・君津・銚子東クラブ創立（357地区・青山幸高 DG 市川東 RC）
1. RI の立法機関としての規定審議会が初開催（ヒューストン大会）
1. 第 1 回ロータリー研究会

1973年

1. 鎌ヶ谷・松戸北・クラブ創立（349地区・半田利一 DG 浦和 RC）
1. 日本 20 地区に分割
1. 第 28 回千葉若潮国体開催

1974年

1. 袖ヶ浦クラブ創立（349地区・藤代善次郎 DG 木更津 RC）
1. 青少年交換プログラム始まる。

- 1. 環境保全と資源問題の委員会設置。意義ある業績賞復活。
- 1975年
 - 1. 茂原東・柏西・クラブ創立（349 地区・野口長太郎 DG 佐原 RC）
 - 1. 「ロータリーの友」英語版創刊。
 - 1. 規定審議会 3 年毎開催始まる。
- 1976年
 - 1. 沼南⇒柏東・千葉西・白井・野田東・市川南クラブ創立（349 地区・岡野正雄 DG 柏 RC）
 - 1. ロータリーの目的（定義）発表
- 1977年
 - 1. 船橋東・千葉中央・クラブ創立（279 地区・岩城長保 DG 千葉 RC）
 - 1. 日本 22 地区に分割
- 1978年
 - 1. RI 第 69 回東京国際大会開催（参加国及び地域 95 以上、39,834 人）
 - 1. 保健・飢餓追放・人間尊重（3-H）プログラム発表（RI 主導型奉仕活動）
 - 1. 米国カリフォルニア州デュアルテ RC が女性入会を認めため RI が除名、その後裁判となる。
 - 1. 日本 23 地区に分割。
 - 1. ロータリーの目的（定義）手続要覧に掲載
- 1979年
 - 1. 職業奉仕週間新設。
 - 1. フィリピンでポリオ予防接種開始（3H 補助金第 1 号）
 - 1. 530 運動が全国に展開
- 1980年
 - 1. 船橋南クラブ創立（279 地区・斎藤 任 DG 館山 RC）
 - 1. ロータリー創立 75 周年に合わせ 3-H プログラム推進。
 - 1. 「ロータリーの友」公式地域誌に認定。日本 24 地区に分割
- 1981年
 - 1. 柏南・浦安・八千代中央クラブ創立（279 地区・平田博永 GD 市川 RC）
 - 1. RI 日本支局開設（現日本事務局）
- 1982年
 - 1. 松戸中央・四街道クラブ創立（2790 地区・寺田欣一 DG 佐原 RC）
 - 1. 向笠広次氏 RI 会長に就任（1982-83）。
 - 1. 日本 26 地区に分割。「日本ロータリー 60 年史」出版
- 1984年
 - 1. 富里・千葉港クラブ創立（279 地区・小原美紀 DG 銚子 RC）
 - 1. 「ロータリーの基本的特色」発表。「ロータリーの目的」を「ロータリーの定義」と改正。
 - 1. 決議 23-34 が手続要覧から削除
- 1985年
 - 1. ロータリー創立 80 周年。
 - 1. 「ポリオ・プラス計画」を発表（翌年より実施）（ポリオ撲滅運動の推進）。
- 1986年
 - 1. 松戸西・習志野中央クラブ創立（279 地区・佐川一元 DG 船橋南 RC）
 - 1. ロータリアンが 100 万人を突破、日本では 10 万人を超える
 - 1. 決議 23-34 が手続要覧に復活
- 1987年
 - 1. 船橋北・流山中央クラブ創立（279 地区・黒田 実 DG 茂原 RC）
 - 1. RI 職業奉仕委員会復活（40 年ぶり）。職業奉仕に関する声明発表（職業奉仕概念の変更）。日本 28 地区に分割
- 1988年
 - 1. 市原中央・千葉幕張クラブ創立（279 地区・斎藤 博 DG 市原 RC）
 - 1. 広島で第 4 回ロータリー平和会議開催
- 1989(H1)：
 - 1. 女性ロータリアンを認める（シンガポール規定審議会）。日本最初の女性会員誕生（第 2500 地区 清水 RC・279 地区茂原クラブに 2 名入会）
 - 1. 「ロータリアンの職業宣言」採択。“Service above self”（超我の奉仕）が第 1 標語となる。「ロータリーの定義」文言改正
 - 1. 日本 30 地区に分割
- 1990年
 - 1. IGF を IM に呼称変更（日本）
 - 1. ロータリー財団寄付シェア・システムに改正。「われらの天体、地球の保全プログラム」発表
- 1991年
 - 1. 千葉東・野田セントラル・富津シティクラブ創立（2790 地区・平塚新兵衛 DG 佐原 RC）
 - 1. 日本ポリオ・プラスキャンペーン終了（募金総額 49 億円）。その後、財団ベースで継続
 - 1. シェアシステム採用。「国際ロータリーの使命」発表（団体奉仕活動の提唱）。
 - 1. 日本 31 地区に分割

1992年

1. 市川シビッククラブ創立（2790 地区・土屋秀雄 DG 千葉 RC）
1. 社会奉仕に関する声明（決議 92-286）採択（社会奉仕基準の改正）
1. 環境保全（決議 92-287）を発表。アディショナル正会員制度一部改正。
1. 日本 33 地区に分割

1993年

1. 茂原中央・船橋みなと・館山ベイ・成田コスモポリタンクラブ創立（2790 地区・越部平八郎 DG 千葉南 RC）
1. 世界社会奉仕の目標発表

1994年

1. 日本 34 地区に分割

1995年

1. 佐倉西クラブ創立（2790 地区・大矢惣一郎 DG 大原 RC）
1. メークアップ期間の延長。パスト・サービス会員資格改正。
1. 「家族」構想開始。家族週間指定。
1. 「ロータリーの定義」改正

1996年

1. 佐原香取クラブ創立（2790 地区・石井亮太郎 DG 松戸東 RC）
1. 各地で新世代会議開催
1. 「女性のニーズに答えるロータリー活動声明」採択

1997年

1. ニューリーダーシップ・プラン採用。「ロータリー家族」構想

1998年

1. 千葉北・千葉緑クラブ創立（2790 地区・渡邊 隆 DG 習志野 RC）
1. ロータリーセンターの設置（日本では 2002 年、国際基督教大学に設立）。出席規定適用免除改正。「国際ロータリーの使命」改正

1999年

1. 千葉若潮クラブ創立（2790 地区・北原敬一 DG 船橋東 RC）
1. ロータリー財団奨学生の直子さん（SP 松戸中央 RC）が宇宙飛行士に選抜される

2000年

1. 大網・東金ビュークラブ創立（2790 地区・秋元秀夫 DG 君津 RC）
1. 日本 35 地区に分割。
1. CAP（地域社会援助プログラム、後の地区補助金）開始

2001年

1. 正会員と名誉会員に統合、シニア、パスト、アディショナル会員廃止。
- 1.1 業種 1 会員制変更。
1. サイバー RC テスト認可。メークアップ規定の変更。「国際ロータリーの使命」改正

2002年

1. 1993 年に試験的に実施され 1996 年に推奨プランとなった地区リーダーシッププラン（DLP）が義務的实施となる（ロータリー第 2 世紀への体制強化）。
1. ロータリー世界平和フェロー第 1 期生入学。
1. 日本 34 地区に再編成
1. 創立 100 周年に向けて「ポリオ撲滅キャンペーン」展開

2003年

1. 「ロータリー家族」を RI 会長強調事項とした。家族月間設定

2004年

1. “He profits most…” を “They profit most…” に改正
1. 2000 年より DLP に連動するクラブ管理プランとして検討され 2003 年より試験的推奨が始まっていたクラブリーダーシッププラン（CLP）の推奨クラブ細則が発表された
1. RI 第 95 回大阪国際大会（参加国及び地域 112 以上、45,595 人）

2005年

1. ロータリー創立 100 周年記念大会（シカゴ、参加国及び地域 161 以上、39,460 人）
1. 日本に財団学友による RC 誕生（神奈川 2007 年に大阪でも誕生）。CLP 推奨細則一部改正

2006年

1. 財団の「未来の夢計画」始動（財団の新方針）
1. 「国際ロータリーの使命」改訂

2007年

1. 会員資格の変更（財団学友、ボランティアリーダーの入会可）
1. 四大奉仕部門をロータリークラブ定款に明記（2010 年に五大奉仕となる）
1. ポリオ撲滅へのビル・ゲイツ財団寄付に対応してロータリー 1 億ドルチャレンジグラント発表（翌年より 2 億ドルを目標として 2012 年 6 月末まで継続）
1. RI 長期計画（2007-10）発表。「国際ロータリーの使命」改正
1. ロータリー財団の使命、標語（Doing good in the world）、優先事項など採択

2008年

1. 決議 23-34 がロータリー章典から抹消（手続要覧には記載）

2009年

1. 浦安バイククラブ創立（2790 地区・中村博巨 DG 柏西 RC）
- 1.RI 第 100 回バーミンガム国際大会（参加国及び地域 157 以上、16,062 人）。
- 1.RI 職業奉仕委員会再復活。公式名簿巻末の“ideal of Service” 説明文削除・改変

2010年

1. 新世代奉仕が加わり五大奉仕となる
1. “They profit most…” を “One profits most…” に変更
- 1.4 月の規定審議会で決議 23-34 第 1 項を奉仕の哲学の定義として使用することを検討するよう RI 理事会に要請する件採択。6 月理事会で確定。決議 23-34 のロータリー章典、手続要覧両方への掲載決定（ロータリー理念の再確認）
- 1.RI 新長期計画発表（2010-13）。E クラブ承認
1. 「ロータリーの定義」的説明文削除。「国際ロータリーのビジョン」「中核となる価値観」発表

2011年

1. 「ロータリアンの職業宣言」を「ロータリーの行動規範」と改正変更。
- 1.WCS（世界社会奉仕）が廃止され国際奉仕に一元化
- 1.RI 長期計画は RI の「ビジョン」を「本質」と改正。10 月には「長期計画」（和訳名）を「戦略計画」と改称。One Rotary 構想推進
- 1.RI 職業奉仕委員会を RI 職業奉仕推進委員会と改称

2012年

1. 田中作次氏 RI 会長に就任（2012-13）
1. ポリオ撲滅ロータリー 2 億ドルチャレンジグラント達成

2013年

1. “Object of Rotary” の日本語訳「ロータリーの綱領」が「ロータリーの目的」と変更され内容の訳文も改正された
1. 新世代奉仕を青少年奉仕と改称。E クラブ数制限撤廃
1. 広島でロータリー世界平和フォーラム開催（ベルリン、ホノルルに次いで）
1. ロータリー財団新補助金プログラム「未来の夢計画」実施主参考資料
1. 「ロータリー日本 50 年史」「ロータリー日本 60 年史」

2019(R1)年

1. 規定審議会で、出席補填の起源が年度内に期限範囲が変更される
職業分類がクラブ会員構成に変更される
ローターアクトクラブが国際ロータリー会員となる

2020年

- 1.COVID19 ウイルス感染が世界中に蔓延したことにより、クラブ例会や地区行事が中止され、感染拡大防止を目的にしてホノルル開催の国際大会が中止される。
1. 感染予防活動の医療者を支援する運動が活発になる。

■「日本ロータリーのあけぼのから 100 年」 海寶勲一（出典：ロータリーチャンネル）

1905 年に 4 人の青年によって創設されたロータリークラブも、今年度で 115 年を迎え、次年度には日本のロータリー 100 周年を迎えることができます。シカゴに於いては始祖である Mr. ポール・P・ハリスが ROTARY を創設しましたが、東京に於いては米山梅吉翁と福島喜三次氏がロータリークラブ創立に目覚めてから、日本ロータリーのあけぼのがはじまりました。

我々ロータリアンは、日頃のロータリー活動から、自ら学びとり修学することが多くあります。人生とは人から与えられるものでなく、教えてもらうものでもなく、また人に教えられるものでもなく、自ら修養修学を積み増していくことであると気づきました。長い時間が掛かりましたが、ロータリー活動を体験する中で、幅広く受け止めることができました。

ロータリーには価値ある言葉が多々あり沢山の事を学んでいます。なかでも「Enter to learn and go for to serve 入りて学び出でて奉仕せよ」は短い言葉であってもロータリーの核心を表現させる言葉として、最も価値がある言葉だと受け止めています。

ロータリーの組織自体に価値があり評価されるのではなく、一人一人のロータリアンの活動から醸し出される、奉仕の理念と実践が人の価値を構築させているのだと思います。ロータリアン一人一人の真摯で価値ある活動があってこそ、ロータリーの組織に価値を与え続けることができるのでしょうか……。世界中にあるロータリークラブの奉仕活動すべてが、世の為人の為にと願う人間尊重の誠心があってこそ、ロータリアンの思いやり精神に結びつくことを理解しましょう。よりよい友情を育てて、よりよい人間関係を構築させ、その人の信頼する友愛の広がり、更なるよりよい人類社会を構築していくという信頼関係が深まってこそ、尊敬し合えるロータリー精神が本物になってくれます。毎週あるクラブ例会では、信頼し合える仲間の輪が広がり真の友人が得られることや、様々な情報交換ができ人生修行から得る自己啓発ができています。毎週ある例会時の会長挨拶や会員卓話からは、その人なりの素晴らしい人生観を知ることができます。毎週の例会が有意義で貴重な修学となり、例会の価値が高まり一層楽しみになってきます。短い例会時間を有効に活かすなかでも、仲間との楽しい昼食や談話ができることも有意義なことです。お互いに信用を重ね合う時間経過からは、友情を深め合うことにより信頼感が深まります。其れゆえに、世の中や他人の為に奉仕の機会を見つけ出すことが容易になります。綱領であるロータリーの目的でも、先ずはよりよい知り合いを広めるこ

とを第一にあげていることから、友情を共有するロータリーの魅力と自覚を大切にする必要があります。地区 RLI (ロータリー・リーダーシップ研究会) 推進活動でも実体験していることですが、参加する各クラブメンバーの感想から分かることは、ロータリアンになってから、他地区や他クラブの知りあいの輪が広がり、素晴らしい友人を持つことができたこと、多くの方が体験談を述べてくれています。ロータリー生誕 115 年間ですが、その年度年度の歴史が重なり合い積み重なって、現在のロータリーがあります。そのなかでもロータリー理念の基礎確立に孤軍奮闘し貢献した一人が、シカゴクラブメンバーのアーサー・F・シェルドンであったことは評価することであり、人となりを知る必要があります。

ロータリーの賢人 A・F・シェルドンはビジネス学校経営者らしく、社会の中で最も成功している事業体や、顧客も多い商店や会社を詳細に調査していました。A・F・シェルドンは、職業人としては常に顧客への配慮と善意を持つことが最も大切であることを考え、常日頃から主張していました。さらには、企業人や商売人はただひたすら儲けを出すことを優先させて、日々の経営を利益追求タイプの事業体にしてはいけないことを説いていました。更には商売というのは短期的な成功はまああっても、末永く安定し継続性をもって繁栄させることが大事であることを喚起させていました。その為にも取引先との信頼性を重視させ、繰り返して商取引が継続し繁栄するような心構えを啓蒙させていたのです。

ロータリアンは、常に他人のために尽くす思い遣り精神を第一義にして、職業においては常に顧客や取引先を大切に扱い、すべてに善意の思い遣り精神を心から実践させることが肝心だと諭しました。その結果として、各自の事業所が着実にそのシェアをのばし、毎年の業績を拡大して行くことができていることを、A・F・シェルドンは各自に気付かせ多くの仲間にも伝え広げていきました。ある日のこと、A・F・シェルドンの心の中から、神の啓示にも似たひらめきの言葉が浮かびあがったそうです。それは He Profits Most Who Service Best 「最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」という言葉の閃きでありました。この言葉こそ今では国際ロータリーの第二標語になっていて、ロータリアンの大切な指針になっています。

人に徳を積むという精神は、つまりは自己研鑽に励む理想の研鑽になりますが、それは独りよがりの淋しいものではなく、必ず仲間も共鳴共感理解をしてもらえる、それも質の高い良いお仲間が増えてくれて、さらには素晴らしい人間環境が構築されることになります。

これこそが、ロータリーの目的第一項である、「奉仕の機会として、知合いを広める」ことにつながるわけです。経営の神様と崇められている松下幸之助翁も、素直な心がけを定めて経営に努力することの大切さを説いていました。A・F・シェルドンも、物心一如の世界を言いたかったのだと思います。モノにばかり偏った物質尊重だけでなく、精神的なことばかりに偏ったものの考えかたでもよくないことなのです。奉仕活動とは、まずは他人さまのことを考えることであり、真心をもって他人さまのことを考えて奉仕していれば、不思議なことには、それが他人さまのためばかりでなくて、いつの日か必ず自分のために還ってくることを言いたかったのだと思います。アーサー・F・シェルドンは、これを「利己と利他の調和」と呼んでいます。そして「それができるような心の状態を得るためには自己研鑽が必要になります。そのための自己研鑽の場がロータリークラブの例会や奉仕活動なのです。そしてその困難な自己研鑽を夢中になって一生懸命に実践させることが奉仕の理想の世界、奉仕の心の世界ですよと言いたかったのだと思います。アーサー・フレドリック・シェルドンの言葉は深い思索の中から生れたものでしたし、フランク・コリンズの言葉である、滅私の奉仕 Service not Self は、大会の雰囲気の中の強い感動の渦の中から激情と共に、溢れ出した衝動の言葉であったようです。

この二人の言葉は、奉仕の実践を強調したものには変りはなかったのですが、その基本的な立場は必ずしも同じ性格のものではなかったようです。

A・F・シェルドンの言葉ですが、「まず奉仕に徹すること、その自己研鑽による精神的な境地の開拓が信用を確立することになる。信用こそ安定した長期的な利潤を生むのである。この奉仕する心と利潤獲得という商行為とが一体となって、初めて永続的な販売が可能になる。

利潤獲得は信用の確立あって初めて安定し、信用の確立は、自己研鑽に励む奉仕の心を涵養することにより得られるのだ。」という原理原則的な発想を一つの言葉として表現したものです。F・コリンズのいう滅私の奉仕 Service not Self はこれとは一寸違うように思います。

これは後になってから「超私の奉仕 Service above Self」と変更されていますが、Service とは 他者への尊重に専念する大切さを知ることであり、そのためには、not self 自我をなくしましょう」ということになり、自己を滅却させる重要さを意味しています。

ロータリー活動は自己形成の修養が優先しますので、自我や自己を否定するものではないことを認識させ、しっかりと知ることが大切であり、その認識を深める必要があります。

Service not Self について、当時のポール・ハリスは次のようなわかりやすい言葉で説明しています。「ロータリーとは、自己の権利を主張するに先立って、自己の義務の履行を考える思考である」加えて、「権利の主張よりも、まず義務の履行」という表現を使ったわけです。

少しだけ注意する必要があることは、自己の権利主張を全てに否定しないで、ただそれ以前に礼儀正しく道義的な言動を実践させる必要が大切であり、心すべきことなのです。

Service not Self は、1923 年、A・F・シェルドンにより、Service above Self という標語に訂正されたと記録が残っています。事業において、不道徳的な経営手段をもって利潤を追求しても、それは短期的には成功するかも知れませんが、決して長期的、安定的な利潤にはなりえません。「利己でありながら同時に利他でもありえる」という、利己と利他との調和の世界を自ら追い求めねばならないのです。利己の心構えよりも利他の心構えは大変にむづかしいことですが、ロータリー精神はこれを達成するように努力することが貴重で価値があるのでしょうか。そのための自己研鑽や切磋琢磨することが必要なことを、常に仲間同士で学び合いたいものです。利己的な考え方を捨てて、さらに進歩向上した自分自身を求めることが Service 思い遣りの世界であることを理解したいものです。A・F・シェルドンは向上する Service を求めて、即ち超私の奉仕 Service above Self なのだと言っています。Service above Self は、さしずめ、自己研鑽あってこそ初めて奉仕ができるのです、ということを意味しているの

ではないでしょうか。Service above Self は、ロータリー思想の原理を示す標語であり、一方の He profits most who service best はロータリーの実践に関する標語になるのではないのでしょうか。

最終的には二つの標語とも A・F・シェルドンによって完成されたことになっています。

我々ロータリークラブの真価とは、どれほどの寄付行為をしたとか、又はどれほどの奉仕活動を実践したかではなく、そのクラブが価値あるロータリアンの人づくり活動をしっかりと行ったのかどうか、ということにつきるのであると、1974-75年度のW・R・ロビンス元RI会長の言葉があります。重ねて、お金や品物を寄贈して社会奉仕するのはロータリー活動の本質ではなく、奉仕する人の豊かな心や資質を育成し社会に貢献し伝搬させていくのがロータリーであるとも言明しています。私たちロータリアンの模範的な活動とは、クラブ例会への出席を面倒がることなく出席を楽しみにするようになった時こそ、本物のロータリアンになれるのだとも言われています。

ロータリーに価値を与えるのは一人一人のロータリアンの心掛け次第ですから、クラブに於いて自己形成ができるかどうかは、大変興味深いクラブ運営が求められますし、改めてクラブ内での豊かなメンバーコミュニケーションが大切になってきます。

昔から言われている例え話ですが、ロータリークラブというのは、桶の中に水をたっぷり入れてお芋を丸太棒でかきまぜると、お互いぶつかり合って泥を落とし、アクを取り、皮を剥いて綺麗なイモになる作業同様に、メンバー同士がクラブ内で切磋琢磨しあっている姿を表現しています。メンバー一人一人が、職業や社会の指導者となるだけの訓練が、毎週の例会を通して身に着けることができますから、ロータリークラブ例会を休むと云う行為は、価値ある千載一遇のチャンスをミスミス逃すようなものだとして理解する必要があります。

米山梅吉翁も、ロータリーは人生修養の場であり、人格涵養の道場であると発言されていますし、ハーバート・F・テラーもロータリーは人間をつくり、かつ友愛を育てるものであると、同じ内容の宣言をされていますのが大変に興味深いことです。

1917大正6年は、日本政府が目賀田種太郎男爵を団長として、財政経済委員をアメリカに派遣しましたが、その派遣団の一員として、後の東京クラブ初代会長になった米山梅吉翁が随行したのですが、年齢は丁度50才の時でした。当時は、アメリカのダラスでは三井物産系の東洋綿花会社の支店があり、支店長は九州有田出身の福島喜三次さんでした。米山さんがダラスを訪ねたのは大正6年の年末から正月までで、その間に福島さんが米山さんをダラスロータリークラブの例会に、ゲストとして御招待したということです。福島喜三次さんは当時34才だったにもかかわらず、その誠実さがだれよりも厚くあったために、無条件でダラスRCに入会を推薦されています。当時の日本にはロータリークラブが存在していませんので、福島さんがわが国のロータリアン第1号となります。1920大正9年東京ロータリークラブが創立されるまで、日本人として唯一人のロータリアンであったということになります。その後、日本に帰還する時に、国際ロータリークラブ連合会事務局は、福島さんに対して日本でロータリークラブを創設してほしい旨の要請をしました。ロータリークラブの創設を日本でも進めてみても良いと、色よい返事をした福島さんでしたが、日本に帰国すると本社での役職も権限も高くなく、ロータリークラブの創設は簡単にできる筈はありませんでした。その際に相談に乗ってもらった顔なじみの米山さんは、ダラス訪問時に参加したことがあるロータリークラブだけに、米山さんにとっても縁が深いロータリー創立準備の相談を受け、前向きに創立準備を始めることになりました。

日本にもロータリークラブをつくることに、大いに共鳴し賛同した米山さんは日本第1号ロータリアンである福島さんを幹事とし、当時の東京経済界の超一流企業人を集めて、東京ロータリークラブの創立を企画しましたが、なかなか創立迄は大変な尽力が必要だったようです。

東京ロータリークラブは、米山梅吉さんと福島喜三次さんが率先して活動しましたが、国際ロータリークラブ連合会は横浜で貿易商をしていた、W・L・ジョンストンをクラブ拡大補佐に任命し支援を請いました。各氏の尽力により、1920大正9年8月に、18名の予定会員を集め東京銀行クラブで説明会ともいえる晩さん会を開き、10月20日になって24名の錚々たる名士を揃えて創立総会を開くことができました。初代会長は当然のこと米山梅吉さん、初代幹事は福島喜三次さんで船出することができました。

RI国際ロータリーが毎週一回のクラブ例会を開くように定款に定めたのは1922年からであり、それ以前の国際ロータリークラブ連合会時代に創立したクラブは、「特権保有クラブ」と評価され、そのクラブの総会議決が優先していました。創立当時の東京クラブの例会開催は適当になっていて、あまり熱心な状況ではありませんでしたが、考えようによっては、当時の国際ロータリークラブ連合会の事情が優先されて仕方ないような気もいたします。

東京ロータリークラブは、1921大正14年4月1日付をもって登録番号855号をもって認証され日本で第1号のロータリークラブとして認められています。初代幹事の福島さんですが、急遽大阪支店に転勤が決りましたが、これをあたたかく迎えたのは関西の財界人達でした。東京と違って上下の階級意識が比較的に強くない下町的な開放感が強い大阪で、福島さんはロータリアンとして大活躍をすることになります。

当時、関西財界の大御所だった星野行則さんは、福島さんに「東京にはロータリークラブというクラブがあるそうだが、どんなもんか教えてくれへんか」という具合にザックバランにたずねたそうです。星野行則さんは自ら団長として英米訪問実業団を組織し渡航した折に、アメリカの国際ロータリー本部を訪問しました。当時活躍中の有名なチェスリーパー事務総長と会したそうです。「是非とも大阪ロータリークラブの創設をやらせてくれ」という星野さんに対して、チェスリーパー事務総長は大変喜んでロータリーのことを詳細に説明し、大阪ロータリークラブ創立の全権を星野氏に委任しました。結果的に、大阪RC創立のスポンサークラブは東京RCではなくて、RI国際ロータリー直轄であったことは注目に値します。1922年大阪RCが創立し初代会長には星野行則さん、初代幹事に福島喜三次さんがそれぞれ決めました。東京RCと異なり、まず会員間の信頼関係構築を優先させ、クラブ例会開催時間の励行、例会出席義務を厳しくさせ、会員を例会にひきつけました。併せて親睦活動として、運動会、小旅行同好会などを催し、和気あいあいのクラブ運営が行われたそうです。大阪RCはロータリーの基礎から学んで、例会運営を重視したところにその成功があり、万事に開放的で打ち解け合った仲良しクラブとして親睦を深めました。その点では、冷めていた東京クラブとは対称的なクラブ運営であったといえそうです。大阪RCはRIから直接に基礎から学んで誕生したRCだけあって例会を重視し、親睦から奉仕へというロータリーの精神をよく励行しています。大阪RCができて東京RCは相変らずの気楽な運営で、殿さまの集まりのようでしたが、この状態に対して、

まさに眼の覚めるような大ショックが訪れました。それは1923年（大正12年）9月1日午前11時58分、突如として関東地方を襲った大地震、即ち関東大震災がありました。その当時のRI会長は、1916年に名案内書「ロータリー通解」を発表した本人であるガイ・ガンディカーRI国際ロータリー会長でした。

ガイ・ガンディカー会長は早速に見舞の電報を大阪に打ち、当時の25,000\$を大阪RCに送付しました。なぜ東京RCに送金しなかったのかは、当時の惨状から東京が壊滅状態にあり東京RCがどのような被災状況か全く見当がつかなかった所以であります。一方の見方ではそれだけ大阪RCの信用度が高く、信頼が厚かったと見てよいそうです。国際ロータリー組織の偉大さと、世界中のロータリークラブからの慈善の真心が届き、改めて奉仕の精神に触れることができ、大いに感動した東京RCのメンバー達でした。会員構成はたいへん資質の高い人々が多かっただけに、惰眠から覚めた秀才のように覚醒し、その後は一層熱心にロータリー活動をはじめ、週1回は必ず例会を開いたと言われております。

米山梅吉翁が、その先頭に立っていたことは勿論ですが、先頭に立って「ロータリーは人生修養の道場である。ロータリーは社会常識を修養する為に必要にして適切な機会を提供している」と述べ、その後はロータリー活動を盛んにするように鼓舞して、一所懸命ロータリー活動に邁進していったそうです。その後、日本、当時統治していた朝鮮、満洲を含む地域を一つの地区として認めてもらいたいと国際ロータリークラブ連合会に申し入れまでしました。

当時でも、地区運営というのは、最低でも40RC位単位のクラブ数があるのはじめて、地区構成が認められるのが原則となっているのに、当時は日本、朝鮮、満洲で7RCでしたから、その異常さに国際ロータリークラブ連合会も驚いたようです。

しかし、米山さんの熱心さに屈して第70地区として認めてもらい、初代地区ガバナーに就任したのは勿論のこと米山梅吉翁でした。米山さんは「常識閥門」という本を出版しておられますが、この中にロータリーの思想に相通する文章があるのは、とっっても興味深いことだと思います。「米国第一流の実業家たちは、ほとんどが徒手空拳の裸一貫身を粉にして働き成功した人間であり、その間に体験によって修養を積み、常識を立派に備えている。彼等はGive and takeの常識に従って、富を作るは他を益する為であると考え、社会の富は一個人が占有するものでなく、右手で苦労して儲けた金を惜し気もなく左手で世の為、人の為に投じている。そしてそのことはまた自分の為にも良いことだと信じている。」「さて常識とは何ぞや、およそ人の身を立て世に出でんとすれば、まず常識の門をたたき、表玄関で名刺を出し、そして社会の大広間に案内されることが大切なことである。そこには既に先客もあるに相違ない。そこでおもむろに左右を顧みて然るべく己が座を占める。無礼失態のないよう、その社会の大広間における作法を心得るように努力することだ。そこで学びとる作法、我輩はこれを常識と称するのである」等々、常識は修養によって円熟するものだと説明されています。

「ロータリーは人生修養の道場なり」と喝破した米山さんは、ロータリーがその常識を修練する為に必要にして、かつ適切なる機会を提供しているということを知り自負されていたようです。社会的なバランス感覚を養成でき修養することがロータリーの優れたところではないでしょうか。ロータリーでは、各々メンバーロータリアンのわがままを十分に許し合いながら、つまりは、個人の考えを十分に尊重し合いながら、お互いに考え方を交換し、より良いものを求め合っていくこと、自らが切磋琢磨をしていく人たちの集まりだと信じます。

一致団結、一丸となってかくあるべきものに突き進むというものでなく、かくあるべしと個人が考え突き進むのは個人個人の問題と責任にさせて、かつ十分に尊重しあっています。

米山梅吉翁は、そこを十分に心得ておられた懐の深い方の方です。自分はこうと信じていても、それは自分自身のことであり、決してこれを人に押しつけるようなことはなさなかったようです。だからこそ、東京クラブメンバーが生前の米山さんの素晴らしい遺徳を偲び、米山記念奨学金制度を設営したのだと推察しています。

2020令和2年は、国際ロータリーも生誕115年間、日本のロータリーも創立100周年目を迎えることになりましたが、組織や規約は年々大きく変わってきて、その基本となるロータリー精神は、不変であると思います。国際ロータリーの始祖Mrポール・P・ハリスと日本ロータリーの父米山梅吉翁の心意気は、新しいビジョンに向けてこれからは綿々と継承されるべきです。それであれば、いまこそクラブビジョンを掲げて真のロータリークラブ活動を見据えて実践していくべきです。我々ロータリアン一人一人の心意気を通して、世の為人の為に不易流行を繰り返していけることを信じています。まずは自クラブ例会を有意義に価値を高めさせて、更にはクラブビジョンを共有して、一層友愛と親睦を深めて、楽しく尊敬し合える仲間と語り合っていくことが嬉しく思います。クラブビジョンはメンバー一人一人が大切に育む責任があります。

世界中がコロナウイルス感染の騒動禍において、クラブメンバーが自粛する非日常の今日ですが、先輩ロータリアンが築きあげてきたロータリーやクラブを静かに振り返る時間を持つことから、やがては晴れ晴れと活動ができる貴重な日常になる日をこころから待ち望んでいきましょう。